

週刊 沖縄建設新聞

THE OKINAWA KENSETSU SHINBUN

■毎週水曜日発行 ■昭和40年7月7日第三種郵便物認可 ■発行所：(株)沖縄建設新聞 ■http://www.okitel.com

本社：那覇市泊3丁目5番地6
〒900-0012 電話(098)867-1290(代表)
FAX (098) 867-1295
年間購読料：¥30,000(本体価格)+消費税
振込口座(普通)：沖縄海邦銀行本店 100100
琉球銀行本店 025181
沖縄銀行高橋支店 930049



— 第12回 —

並里義明建築研究所
なみざと よしあき
並里 義明氏

造形性があるというのは形から入るもので、建築では邪道とも思われるやり方。しかしモダニズムの中にはそのようなものも多く混在している。ヤドカリが家に合わせて住むように、人が美しい建築に合わせて住む方がよっぽど豊かな建築世界が広がっているように思える。

私の折り紙好きは小学校低学年から、先生に一時授業を任される程度でした。3年生には10cm程の三角スケールを買い、自分で家の図面を写しました。海洋博記念公園にあったアクアポリスに惚れ込み、折り紙で模型を作って遊んでいました。夏にはムービーチ建築に出会い、彫りの美しさに触れました。

高学年には折り紙も高度なものへと進化、くす玉作りは現在の多面体好きにつながるものとなりました。

当時は珍しかった12面あるサイコロを従妹からもらい、XYZ軸以外の軸に興味を持ちました。今でも大切に持っています。また、建築製図に興味を示し1/600で地下駐車場、プール、シアター付きの家を通り越したお城のような施設を描いたりしていました。同時に錯視図や一点透視で立体図ばかりを作図。

中学は迷路作図に夢中。高校ではロックバンド活動ばかりで幾何学とは全く関係無いにも関わらず、その時に出会った創造的音楽の変拍子、変調の旋律は詩的な世界観を教えてくれました。

沖縄職業能力開発大学校住居環境科時代に京都、安藤忠雄、高松伸、ライト建築に触れました。影響を受けた代表的な建築家は巨匠コルビジエ、世界的建築家安藤忠雄、デザイン美を持った高松伸、そして沖縄で日本建築学会賞の受賞経験を持つ真喜志好一です。建築のヒントをくれた先生方には本当感謝しています。

社会人になってヨーロッパ、アメリカの近代建築を多く見てきました。その中でスカルパ、カラトラバ、アルハンブラ宮殿、大英博物館屋根改修、ジオデシック・ドームは私に大きな影響を与えています。

私にとって形から決定されたものは造形性があり、幾何的範囲に及ぶ。そしてその幾何的アイデアは自由曲面をも飲み込み、誰もが幾何学的正確性をもって表現できるような時代に突入した。その建築宇宙にはまだ誰も見てない宝石のような美しい世界が広がっている。子供が宝物にするような、無条件に惹かれるようなそんな形を創造していきたいのである。

幾何学建築家